



肺高血圧症の新規治療薬を指向した イオンチャネル・受容体創薬



ライフサイエンス



Keywords

イオンチャネル、肺高血圧症、創薬



山村 寿男 教授

所属

薬学研究科 細胞分子薬効解析学分野

専門分野

分子薬理学

所属学会

日本薬理学会、日本薬学会、日本生理学会 他

HP

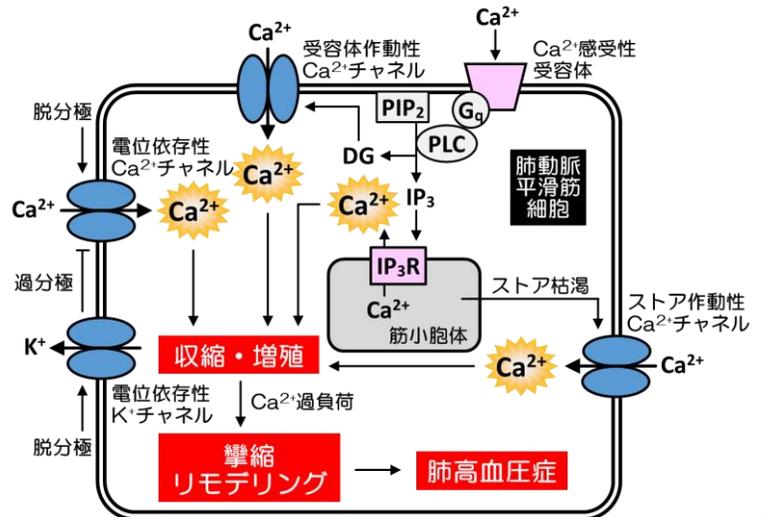
<http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/hp/ysg/>



研究概要

肺高血圧症分類の第1群である肺動脈性肺高血圧症(PAH)は、肺動脈平滑筋の攣縮や肺血管リモデリングに起因する難病です。発症後の予後は極めて不良であり、5年生存率は約50%です。PAHの発症や病態機構は、ほとんど分かっていません。近年、数種類の治療薬が開発されましたが、依然として十分な薬物治療が確立されたとはいえない状況です。そのため、既存薬とは異なる作用機序の治療薬が切望されています。

肺高血圧症に関連するイオンチャネル・受容体



関連する論文

- 山村寿男ら, 日薬理誌, 155(4):230-5 (2020).
- 山村寿男ら, Pulmonary Hypertension Update, 3(1):50-3 (2017).
- Yamamura et al., Eur J Pharmacol, 810: 44-50 (2017).
- Yamamura et al., Am J Physiol Cell Physiol, 306(9):C871-8 (2014).
- Yamamura et al., Circ Res, 112(4):640-50 (2013).
- Yamamura et al., Circ Res, 111(4):469-81 (2012).
- 山村寿男ら, 特願2020-070003.



今後の展望／実用化イメージ

肺動脈性肺高血圧症(PAH)で発現変動するイオンチャネル・受容体を標的とした新規治療薬を開発します。



研究者からのメッセージ

肺動脈性肺高血圧症(PAH)の分子機構の解明のみならず、新規PAH治療薬の開発、さらには肺高血圧症治療ガイドラインの確立にも大きく貢献できると考えています。

問い合わせ

産学官共創イノベーションセンター
(桜山キャンパス本部棟2階/事務局学術課内)
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
(名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」駅③出口すぐ)
☎ 052-853-8309 FAX 052-841-0261
✉ ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp